

大会規定

- 1、試合は今年度オフィシャルソフトボールルールによって行う。
 - 2、新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインに沿って行う。
 - 3、試合開始30分前までに、当該ベンチ付近に集合していること。
 - 4、監督、選手、コーチは統一したユニホームを着用すること。
 - 5、ベンチサイドは、組合せ番号の若いチームが一塁側とする。
 - 6 ※ フィールディングは、審判員の指示により後攻のチームより行い5分以内とする。
但し各チーム第一試合のみとする。
 - 7 ※ バッターサークル(ベンチ)内では、投球に合わせてバットを振らないこと。
投球に合わせてなくても振らない(監督が子供に指導するように)
 - 8、投手が投球姿勢(セット)に入ったときは、両チーム(応援者を含む)は、応援のための声出しや鳴り物を使用してはならない。
 - 9、ベースは移動ベースを採用する。
 - 10、金属スパイクは禁止する。
 - 11、打者及び走者は両耳のヘルメットを着用すること。
 - 12、捕手は、ヘルメット、スローとガード付きマスク、プロテクター、レガースを着用すること。(競技場内での投球練習も着用の事)
 - 13、選手及び監督・コーチがコーチズボックスに入る場合はヘルメット(両耳)を着用すること。
 - 14、オーダー表に記載のない選手は、試合に出場出来ない、(試合に出場可能な選手は全員記載しておく)
オーダー表に記載の無い者はベンチに入れない。
 - 15、審判員に対する確認は監督、以外は出来ない。
 - 16、メガホンの使用は監督のみとする。
 - 17、☆リーグ戦 男子・女子
 - ①7回戦とし70分を経過して新しい回に入らない。
 - ②得点差コールドゲームを採用、3回15点、4回10点、5回7点差以上の差が生じたときは、得点差コールドゲームとする。
 - ③規定回数若しくは、規定時間に達して後攻のチームが勝っている場合は、後攻は行わない。
 - ④規定回数若しくは、規定時間に達して同点の場合タイブレーカーで勝敗を決定する。(失点はカウントしない)
- ☆決勝トーナメント
- ①得点差コールドゲームを採用、3回15点、4回10点、5回7点差以上の差が生じたときは、得点差コールドゲームとする。
 - ②準決勝、決勝戦、は7回戦とし80分を経過して新しい回に入らない。
 - ③規定回数若しくは規定時間に達しての同点の場合は、タイブレーカーによって勝敗を決定する。
- 18、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策
日本ソフトボール協作成のガイドラインおよび群馬県作成のスポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドラインに則り、下記の対策を講じ運営をする。
 - ① 感染防止策として、参加チームは代表者・監督・コーチ・記録員・帯同審判・運営員・保護者で当日来場する参加者全員の「健康状態申告書」を2枚ずつ用意し、2枚とも一括して大会受付に提出する。
観戦者は、選手の家族2名までとし、事前に申請があった保護者のみ入場可能とする。それ以外の入場をお断りします。
 - ② 試合中を除き、参加者全員原則マスクを着用すること。試合でマスクを外す場合は、マスクをケースか袋に入れて保管すること。(保護者が管理するのでもよい)
当日未着用者は入場認めず、マスクの配布も行わない。
 - ③ 会場内では、いかなる場面においても密集・密接を避け(他の人との前後左右の距離を極力2mとる)
特に対面での会話や身体的接触行為(握手、ハイタッチ、グータッチ、ハグ等)や、大きな声援や会話は禁止とする。
 - ④ ベンチ内では各チームで消毒液を用意、共用で使用する用具はこまめに消毒を行う。
試合終了後ベンチ内を消毒してから、ベンチを空ける。

- ⑤ 会場内での水分補給を除く飲食は禁止とする。
- ⑥ 37.5度以上の発熱・風邪症状・咳・痰・咽頭痛・胸部不快感・強いだるさや倦怠感・味覚嗅覚を感じない場合は参加を認めない。
- ⑦ 過去14日以内に感染が拡大している地域や国への渡航歴がある場合には、参加できない。
- ⑧ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合、あるいは過去14日以内に感染と接触がある場合や濃厚接触者と特定された場合は参加を認めない。

19 、 球技場内は禁煙とする。

20 その他

- (1) 試合終了後のグラウンド整備は勝利チームが中心となって行なう。
- (2) 各自ゴミ袋持参し、持ち帰ること。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の拡大等による群馬県の警戒レベルの引き上げや施設の利用制限の変更により、開催を中止する場合がある。